



挙式の入場は庭園入口の茅葺門から。新郎に縁のある土地の伝統工芸品「阿島笠」を持って入場

Welcome to my home

ようこそ
我が家へ

CASE 1 長坂家

音の葉「おふたりが音の葉を選ばれたきっかけを教えてください」

新婦「できれば大好きな地元駒ヶ根市で結婚式をしたかったんです。音の葉さんを見学してみて、建物や会場のサイズ感などアットホームな雰囲気イメージにぴったりでした。両親が気に入ってくれたのも大きかったですね。」

新郎「大きな道から少し奥に入るところにある音の葉さんは、静かで木々に囲まれているロケーションがとても印象的でした。秋には紅葉の景色が見れることもあって、結婚式の時期は11月に決めました。」

音の葉「挙式は神前式でしたが、これは事前に決めていたとお聞きしました」

新婦「元々白無垢に憧れがあり絶対に着たかったんで



挙式の入場で使用した伝統工芸品の「阿島笠」

テーマは「和」
家族、友人の想いが繋がる
色鮮やかな秋の一日

す！それでやはり似合うのは神前式かなと。」

新郎「打合せの中でプランナーさんが庭園で神前式をしませんかと提案してくれました。音の葉さんでも初めての試みと伺いましたが、人と違った事をしたかったのでそれだ！と即決しました。」

新婦「あれは即決でしたね！挙式



紅葉に彩られた庭園での神前式



音の葉の縁側にて結婚式についてお話してくださったおふたり

はチャペルか神殿といったような
すでに組まれたプランより、オー
ダーメイドで1から提案してくれ
る柔軟なプランニングに改めて魅
力を感じました。」

音の葉「当日は見事な秋晴れでし
たね！」

新婦「私たちは有名な雨男雨女
なんです。(笑)当日がいいお天気
になるようにと、岐阜に住んでる
友人が東京にある気象神社の晴れ
守りをわざわざ買ってきてくれた
んですよ。」

新郎「そうそ
う。準備を進
めていく中で、
本当に色々な
方たちに支え
られていることを実感しました。
父は陶芸が趣味なんです、出席
者の全員の湯呑みを作る！って
張り切り出して。(笑)」

新婦「そしたら私の母が、その湯
のみを乗せる和柄のコースターを
作る！と申し出てくれて。」

新郎「乾杯をその湯のみでやりま
しょう！と、プランナーさんが提
案してくれたので、それならばと
静岡の友人の家が作っているお茶
を使ったんだよね。」

音の葉「周りの方々に支えられて
いることを実感したというおふた
りの言葉通り、テーマである「和」
というものが、どんどん繋がっ
ていきましたね」

新婦「そうなんです。私たちだけ
ではなく、家族や友人、そして会
場スタッフの方々がこの結婚式を
すごく大切に想ってくれているこ
とが伝わってきて嬉しかったです。」

新郎「支えてくださった皆さんへ
の恩返しの意味を込めて、当日は

晴れ守りのおかげで
当日は良いお天気に！



しっかりと感謝を伝えられる1日
にしたかったのはありますね。」

音の葉「最後になりますが、おふ
たりにとって音の葉とはどんな場
所でしょうか？」

新婦「いつでも帰って来られる
もうひとつの故郷ですかね。結婚
式場に戻ってきたいと思うことが
独特で面白い！(笑)」

新郎「表札もあるし、音の葉はも
うひとつの故郷だと思っています
！また遊びに来ます！」



新郎お父様作の湯呑みで乾杯！



2018年11月 挙式
長坂 亮介 さん・朋美 さん

おふたりにとって音の葉とは？

「いつでも帰って来られる
もうひとつの故郷」

結婚式場に戻ってきたいと思うことが
独特で面白いよね！